

まちかど・ズーム IN!

精神障害に理解を

NPO白石うぐいす会設立総会



精神障害者の家族と市民有志でつくる「白石うぐいす会」では、精神障害に対する偏見や差別感をなくし、精神障害者の社会参加を支援するため、個人や団体の会員を募り、年度内の特定非営利活動法人（NPO）化を目指しています。

11月5日に総合福祉センターで開かれた設立総会には、既に入会を申し出ている約70名が出席し、勉強会開催や会報の発行など今年度事業を決定。法人化後は、市が運営している精神障害者通所作業所「ポプラ」の運営を担う方針を確認しました。

威勢のよい掛け声



白石市消防団「はしご乗り」

鷹巣地区内で10月28日、白石市消防団員による「はしご乗り」の練習が行われました。これは、来年1月6日の消防団出初め式で、団員の士気を高め、防災についての心構えを新たにすために行われる「はしご乗り」の披露に向けての練習です。消防団では、意気盛んな乗り手6



人、支え手20人からなる「白石市消防団階子乗り隊（はしごのりたい）」を今年6月に結成。以来、週2回の練習に励んでいます。この日は、仙台市消防団員の指導の下、約7mのはしごの上に座り手をかざして遠くを見る「遠見」、はしごの上で腹ばいになり手足を広げる「腹亀」などの演技を繰り返し、バランス感覚を養っていました。

消防団出初め式に先立ち、12月2日（日）午前10時から白石城において「はしご乗り」のお披露目をします。ぜひ、ご覧ください。

城を彩る菊の大輪

第3回白石城菊花展

10月24日から11月12日まで、白石城本丸内で菊花展が開催されました。展示されたのは、市内の菊愛好家15名が丹精込めて育て上げた鉢植え菊約250点。白や黄色の鮮やかな大菊、小菊の見事さと香りが、白石城を訪れた市民や観光客の目を楽しませていました。



白石市民文化祭が11月1日から4日まで、中央公民館で開かれました。

展示の部には海老名市交流作品や型絵染めなど約300点の作品が並べられました。

芸能の部には日本舞踊や民謡、ダンスなど22団体が出場。日ごろの練習の成果を披露し、800名を超える入場者をわかれました。

第32回市民文化祭

芸能発表に800名が声援



おだづもっこ文化祭

NPO活動を楽しく紹介



時代劇を通じ、楽しくNPO活動を紹介する「おだづもっこ文化祭」が11月4日、碧水園能楽堂で開かれ、甲冑（かっちゅう）工房「片倉塾」や白石市民活動フォーラムなど、仙南のNPOなど約20団体が出演しました。

舞台は衣装した出演者が次々と上がる形で進行。出演者はそれぞれの活動を紹介しながら、行政とのパートナーシップの必要性などを訴えるとともに、NPO相互のネットワークの大切さを確認し合っていました。

みなさんからの素敵な情報を待ってます!

やっぱりすしはおいしいね

寿司組合が200食振る舞う



県寿司組合白石刈田支部（佐藤孝夫組合長）が10月24日、特別養護老人ホームえんじゅを慰問し、ホームの入所者やケアハウスの入居者などに、にぎりずしを振る舞いました。

この出張サービスは毎年、管内の福祉施設を慰問して行われているもので、今年も200食を用意。お年寄りたちは「やわらかくておいしいね」と、新鮮なイクラやマグロ、エビなどのすしを味わっていました。

秋の豊作を喜ぶ

白鳥神社秋祭り（深谷地区）

福岡深谷地区の白鳥神社の秋祭りが10月21日に開かれ、深谷小学校の児童たちが太鼓を披露するなど、秋の豊作を喜びました。

この太鼓は「かさまつ太鼓」と呼ばれ8年前に結成。これまで、校内の学習発表会や運動会などで披露してきましたが、白鳥神社では初のお披露目となりました。

また、この日は深谷神明神楽保存会の皆さんによりおよそ20年ぶりに神楽が奉納され、祭りは大いに盛り上がりました。



小泉総理が議長を務める経済財政諮問会議において、『治山、治水などの分野について整備テンポを遅らせる』という提案がなされたが、私はこれに異論がある。

二十一世紀は環境の時代と言われるが、その環境保全に大きな役割を担うものが河川であるから、河川の環境整備にはむしろ、予算の増額こそが望ましい。

先日、A新聞の記者が市長室に訪ねてきて、「おい、びっくりしたよ。」と聞いた。「どうしたの。」と聞いたら「鷹巣橋から下を見たら鯉が悠々と泳いでいた。堰で淀みになっていたせいでさ、二十年前前勤務していた時はどぶ川だったのにな。しらすぎ橋の辺りは



川井市長のせせらぎトーク

スーパーヤマメ

しらすぎをはじめ、名前の分からない幾つかの野鳥が飛んで、白石もやっと自然が戻ったのかね。」と平成の初めの頃、斎川下流のE地域の自治会長から「芋煮会に来い。」と誘われた。早速出掛けたところ、鍋が二つあって、一つは牛肉と里芋の鍋だが、もう一つには鯉が入っている。「おい、この鯉どうしたんだ。」雨が降って斎川が増水した。そこで投網を打って何匹か取ったのさ。」と自慢げに言う。「何だそれじゃ沢端川から下った鯉じゃないか。早く

戻してやればよかったのに。」と言ったがもう後の祭り。よく気を付けて見ると、どうも鯉の鱗の色が赤く見える。錦鯉までやったなと思つて箸をつける気になれなかった。その頃は斎川はどす黒く濁っていて、仮に鯉がいても橋の上からは眺めることが出来なかつたろう。もう十年程前になるのか、津和野に行つたことがある。津和野の堀には重なり合う程鯉がいる。しかし町中を流れる津和野川を、津和野大橋の上からのぞいてみると、下で悠々と何匹かの鯉が泳いでいた。ちっちゃい堀でひしめいている鯉はいかにも人工的で感動はなかつたが、津和野川の清流を泳ぐ鯉は今でも記憶に新しい。鷹巣橋の下の鯉たちはあの淀みにせひ、居着いてもらいたいし、釣り人も結構いるようだが、大事にしてやっていただきたいなと思つた。

このたび国土交通省の水循環改善事業に白石川が全国のトップをきって採択された。現在七ヶ宿ダムから放流されている水は、毎秒〇・八トンである。この事業によって、七ヶ宿ダムからの放水量は毎秒一・八トンに増加する。国土交通省の竹村河川局長はこのように説明してくれた。「毎秒一トンの水量は二十五万人の一般家庭の用水に値するものです。この量を確保する事業費は約百五十億になるでしょう。」既に白石川河川緑地はヤマメの釣り場として定評があるという。殊にこの川に住むヤマメは形が大きく、釣り人たちはスーパーヤマメと呼んでいる。でも私はこれはヤマメが降海し、再び川をさかのぼってきた鱒ではなからうかと思つている。蔵本堰の新魚道も完成した。鮎や川鱒たちはかつてのように、小原温泉まで登っていくだろう。子ども頃、新湯温泉の下の淵で投網で鱒をとるのを見せられた記憶がある。そんな情景を、ぜひ早く目にしたいものである。